

PENTAX®

使用説明書

ESP10140

QUARTZ DATE



カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックスESP10140（エスピオ140）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ140」は撮影距離や焦点距離によって自動的に視野枠、オートフォーカスフレームが変化するファインダーを備えた、38ミリ広角から140ミリ望遠までのズームコンパクトカメラです。

その他にも、6分割測光によるきめ細かな露出制御や、フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載しています。

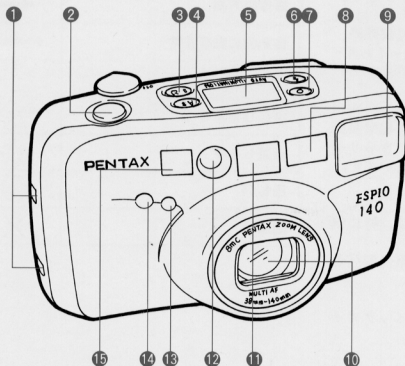
- 説明文中の  内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

58、59ページに切り取って使えるクイックガイドがありますので、ご利用ください。

記号について

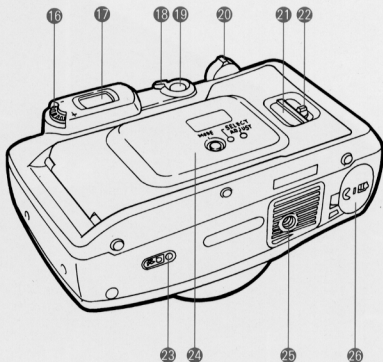
操作の方向	
自動的に動きます	
注目してください	
点灯します	
点滅します	
正しい	
間違い	

各部の名称



- ①ストラップ通し [7 ページ]
- ②シャッターボタン [21 ページ]
- ③セルフ／撮影モードボタン [27 ページ]
- ④AF／遠景ボタン [27 ページ]
- ⑤表示パネル [52 ページ]
- ⑥ストロボ／バルブボタン [26 ページ]
- ⑦赤目軽減ボタン [26 ページ]
- ⑧測距窓
- ⑨ストロボ発光部
- ⑩レンズ
- ⑪ファインダー窓
- ⑫補助光発光部 [18 ページ]
- ⑬セルフタイマーランプ [31 ページ]
- ⑭リモコン受光窓 [34 ページ]
- ⑮受光窓

各部の名称 (背面)



- ⑯視度調整ダイヤル [20 ページ]
- ⑰ファインダー接眼窓
- ⑱パノラマ切り替えスイッチ [41 ページ]
- ⑲電源スイッチ [8 ページ]
- ⑳ズームレバー [11 ページ]
- ㉑フィルム情報窓
- ㉒裏ぶた開放レバー [13 ページ]
- ㉓途中巻き戻しボタン [25 ページ]
- ㉔裏ぶた [13 ページ]
- ㉕三脚ネジ穴
- ㉖電池ぶた [47 ページ]

カメラを安全にお使いいただくために(1)

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、48 ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性のあることを示すマークです。

 は、禁止事項を表わすマークです。

 は、注意を促すためのマークです。

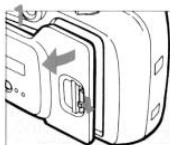
1

目次

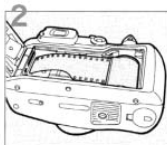
カメラを安全にお使いいただくために(1)	1
使い方は簡単です	3
こんな写真を撮るには?	4
撮影前の準備をしましょう	
1. ソフトケース	6
2. ストラップ	7
3. 電源スイッチの確認をしましょう	8
4. 電池の確認をしましょう	9
5. カメラの構え方	10
6. 38~140mmのズームイン	11
フィルムを入れて撮影しましょう	
1. フィルム感度について	12
2. フィルムを入れましょう	13
3. ファインダー内表示	15
4. ランプ表示と撮影距離	18
5. 通常の撮影モード	19
6. 視度調整	20
7. 表示パネルの照明	20
8. 撮影しましょう	21
9. フィルムを取り出しましょう	24
いろいろな撮影をしましょう	
いろいろな機能の選び方/赤目軽減機能	26
日中シンクロ撮影	28

低速シャッター撮影	29
低速シンクロ撮影	29
バルブ撮影	30
バルブシンクロ撮影	30
セルフタイマー撮影	31
リモコン撮影	32
多重露出	36
遠景撮影	37
スポット測距	38
フォーカスロック撮影	39
パノラマ撮影	41
デートの使い方	44
電池の消耗警告	46
電池の交換	47
カメラを安全にお使いいただくために(2)	48
取り扱い上の注意	49
こんなときは?	50
表示パネル[グラフィックパネル]	52
ストロボ撮影可能距離と赤目現象	54
アフターサービスについて	55
主な仕様	56
クイックガイド	58

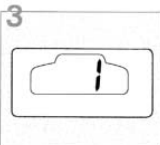
使い方は簡単です。[通常の撮影手順]



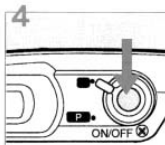
裏ぶたを開けます。
[13 ページ]



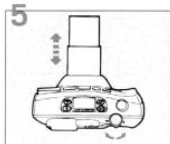
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[13 ページ]



自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[14 ページ]



電源スイッチを押して電源をONにします。
[8 ページ]



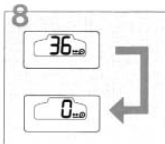
ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
[11 ページ]



写したいものにオートフォーカスフレームを合わせます。[21 ページ]



シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります[22ページ]



フィルムが終わると自動的に巻き戻します。
[24 ページ]

3

こんな写真を撮るには？



ピント関係

遠くの風景を撮りたい	37
窓越しに風景を撮りたい	37
特定の場所だけにピントを合わせたい	38



ストロボ関係

暗い所で写真を撮りたい	19
ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい	26
帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい	28
夕景をバックに人物を写したい	29
夜景をバックに人物を写したい	30



ズーミング関係

写したい物を大きくしたり小さくしたりしたい	11
-----------------------------	----



人物撮影関係

帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい	28
夕景をバックに人物を写したい	29
夜景をバックに人物を写したい	30
自分自身も写真に写りたい	31



風景撮影関係

夕景をバックに人物を写したい	29
夜景を撮りたい	30
夜景をバックに人物を写したい	30

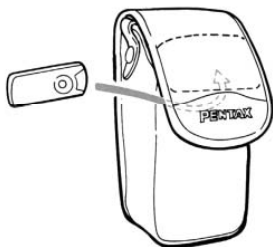


その他

フィルムの同じ枚数の部分に重ねて撮影をしたい	36
カメラから離れた所からシャッターを切りたい	32
写真に日付を入りたい[消したい]	44

1 ソフトケース

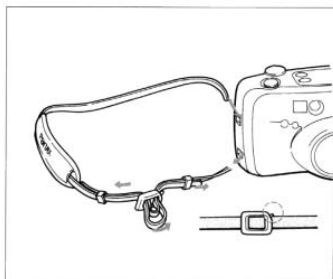
撮影前の 準備をしましょう



ケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源スイッチについては、8ページをご覧ください。]

ソフトケースには、リモコンを収納するためのポケットがあります。

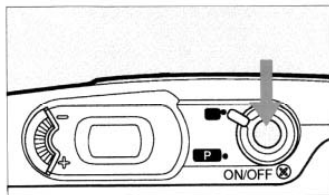
※ リモコンを入れるときは、必ずマジックテープの付いている矢印の方向から入れてください。反対側から入れると、リモコンが落ちる恐れがあります。



ストラップを図のように取り付けます。
ストラップの図の部分には、クォーツデートの修正ボタンを押すとき、電池ぶたを開けるとき、および途中巻き戻しのときにご利用ください。

7

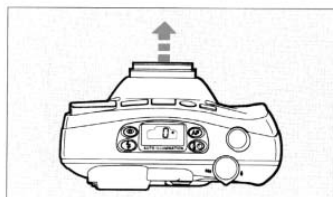
電源スイッチの確認をしましょう



スイッチを押すと電源が入り[電源ON]、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。もう一度押すと電源が切れます[電源OFF]。使用しないときは、必ずOFFにしてください。

3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本を使用します。カメラ本体とデイト機構に共用しますので、電池消耗時の交換以外は、電池を抜かないでください。

- 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。



電源をONにしたとき、レンズが少し前に出れば撮影できます。

〔表示パネルに  マークが出ているときは、46 ページをご覧ください。〕

※ 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。この場合、約 60 分以内に電源をONにすれば電源OFF直前の設定に自動復帰します。

※ 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

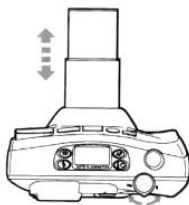


撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。〔強く押すとカメラが動いて、ぶれやすくなります。〕

木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。

カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するとき、ストロボが上になるようにしましょう。

- ズームレンズは、ズーミングによって前後に移動しますから持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。



ズームレバーを 側に回すと、遠くのを大きく写せる140mm側へ、 側に回すと広い範囲を写せる38mm広角側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの構図になったところで止めて撮影してください。
※ 焦点距離を140mm側にすると手ぶれを起こしやすくなりますので、比較的手ぶれを起こしにくいISO400の使用をお勧めします。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

11

フィルムを入れて 撮影しましょう

フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから、入れましょう。

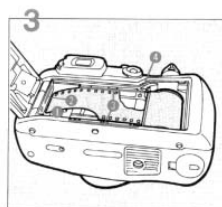
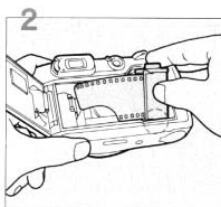
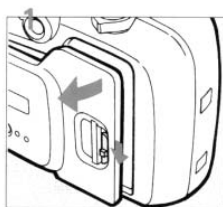
1 フィルム感度について

フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。
[ISO25~3200までのフィルムが使えます。]

※ フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

- ISO800以上の高感度DXフィルムは室内や暗い所での撮影にご利用ください。
- ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。



1. 裏ぶたを開ける

図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。

2. フィルムパトローネを入れる

パトローネ下側を先に入れると簡単に入ります。

3. フィルムの先端を合わせます

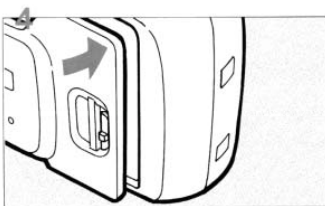
フィルムを少し引き出して①のローラーの上に乗せ、②のフィルム先端マークに合わせます。

- フィルムが③のガイドレールの間に入っていることを必ず確認してください。
- フィルム検知部③にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。



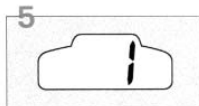
×フィルムのたるみあり ○フィルムのたるみなし

13



4. 裏ぶたを閉じる

裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。



5. フィルム巻き上げの確認

上図のように、フィルムカウンターに「1」が出て自動的に止まります。必ずフィルムカウンターが「1」になっていることを確認してください。

「1」が出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。フィルムを入れ直してください。フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに「E」が点滅して知らせます。

※ フィルムが入っていないくても、裏ぶたを開けるとモーターは約1～2秒間回ります。

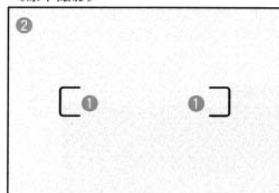
※ フィルムカウンターは、電源をOFFにしても表示されます。

←前ページ図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。

- フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。
- フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。



<標準撮影>



ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整 [20 ページ参照] を先に行なってください。

このカメラでは、撮影距離や焦点距離に応じて、ファインダーの視野枠とオートフォーカスフレームが自動的に変化します。[16、17 ページ参照]

ファインダー内の表示を覚えましょう。

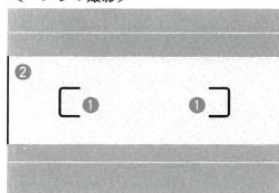
標準撮影

① オートフォーカスフレーム

② 視野枠

標準撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

<パノラマ撮影>



パノラマ撮影

① オートフォーカスフレーム

② 視野枠

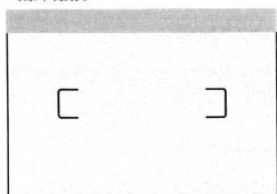
パノラマ撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

※ サービスサイズのカラースプリント [パノラマプリントを含む] では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

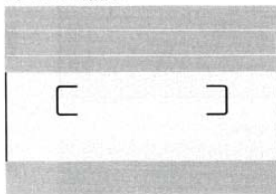
近距離視野補正枠

このカメラでは、撮影距離が近くなると、シャッターボタンを少し押したときに、ファインダー内の視野枠が図のように自動的に変化し補正されます。この範囲に写したいものを入れてください。

<標準撮影>



<パノラマ撮影>

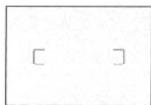
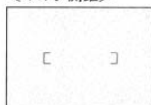


オートフォーカスフレーム

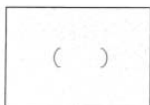
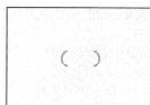
このカメラでは、焦点距離によって下図のように自動的にオートフォーカスフレームが各々3段階に変化しますので、この範囲にピントを合わせたいものを入れてください。

焦点距離が望遠側〔140mm側〕になる程、オートフォーカスフレームの幅は広がります。

<マルチ測距>



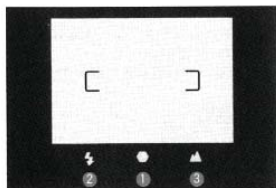
<スポット測距>



17



ランプ表示と撮影距離



ファインダー内には、①②③のランプ表示があります。

- ① 緑ランプ 点灯[撮影可能・フォーカスロック]
点滅[測距不能警告]
- ② 赤ランプ 点灯[ストロボ発光]
点滅[ストロボ充電中]
- ③ 遠景ランプ 点灯[遠景撮影モード]

※ ①②③のランプは、シャッターボタンを少し押さないと表示されません。

※ 緑ランプ点滅は、撮影距離が近すぎるかオートフォーカスの苦手な被写体〔23 ページ参照〕のため測距できないことを知らせます。撮影するときは、必ず緑ランプ 点灯を確認してください。

緑ランプ 点滅中でもシャッターボタンを押せば撮影はできますが、ピントは合いませんので、ご注意ください。

撮影距離〔標準／パノラマ〕

- 撮影は 1m ～ ∞〔140mm 側〕・ 0.73m ～ ∞〔38mm 側〕の範囲で可能です。
- これより近い距離ではピントが合いません。

補助光について

暗いところやコントラストの少ない被写体ではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなときにシャッターボタンを少し押すと、赤色光（補助光）を自動的に投光してオートフォーカスを作動し易くします。

電源をONにすると、通常の撮影モードになります。

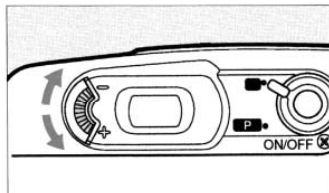
この撮影モードでは被写体が暗いときや逆光のときに、自動的にストロボが発光します。

- 他の表示のときは、電源をOFFにしてからONにすると通常の撮影モードに戻ります。



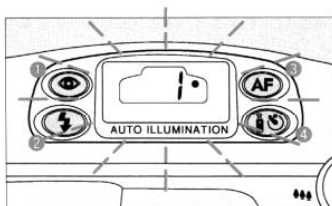
※ 暗い所でのストロボ自動発光時のシャッター速度は約1/40 [38mm側] ～約1/115秒 [140mm側] です。[ISO400フィルム使用時]

19



電源スイッチをONにし、カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整ダイヤルを動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレームの線が最もはっきり見える位置に調節します。

- 視度調整は、ご使用前に必ず行なってください。



このカメラでは、暗い所で図の①②③④のいずれかのボタンを押すと自動的に表示パネルの照明が点灯します。

また、4つのボタンのいずれかを2秒間押し続けられれば、いつでも表示パネルの照明を点灯させることもできます。



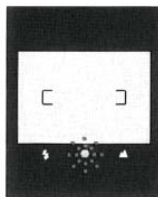
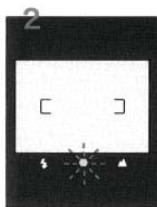
1. 構図を決める

ズームレバーを使って構図を決め、画面中央のオートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。

※ このカメラは、5点AFですから、写す物が画面中心から多少外れていても比較的ピントが合い易くなっています。

※ 特定の場所にピントを合わせたいときは、スポット測距をご利用ください。[38 ページ参照]

※ 測距窓が汚れていると、正しいピント合わせができなくなりますのでご注意ください。



2. ランプ表示の確認

シャッターボタンを少し押し、ピントが合うと緑ランプ  が点灯します。

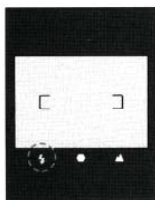
緑ランプ  が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

① 撮影距離が近すぎる (ランプが点灯する位置まで離れてください)。

② オートフォーカスが苦手な被写体の場合 [23 ページ参照]

※ ②の場合、ファインダー内のオートフォーカスフレームも点滅します。

21



3. 撮影

さらにシャッターボタンを押すと撮影できます。[撮影後フィルムは1枚巻かれます。]

※ シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。

※ 一度ピントを合わせてから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

※ ズーミング中は、シャッターが切れません。

ストロボ自動発光

被写体が暗いときや逆光のときには、ストロボが自動発光します。赤ランプ  の点灯は、ストロボが発光することを知らせます。赤ランプ  の点滅は、ストロボの充電中でシャッターが切れませんので、赤ランプ  の点灯を確認してから撮影してください。

このカメラには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは 26 ページおよび 54 ページをご覧ください。

※ ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異状ではありません。

ストロボ撮影できる距離 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	100	200	400
38mm (◆◆◆)	0.73~4.5m	0.73~6.3m	0.73~9.0m
140mm (◆)	1.0~2.4m	1.0~3.3m	1.0~4.7m

オートフォーカスの苦手な被写体

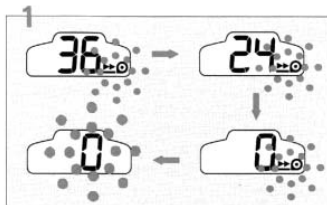
オートフォーカス機構は、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるピントを合わせやすいものにフォーカスロックをしてください。[39 ページ参照]

- オートフォーカスフレームに白い壁や青空などの極端にコントラスト（明暗差）の低い被写体がある場合。
- オートフォーカスフレームに光を反射しにくい被写体がある場合。
- 非常に速い速度で移動している被写体。
- オートフォーカスフレームに横線のみの被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- 遠近のものがオートフォーカスフレームの中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい被写体）。



23

9 フィルムを取り出しましょう「フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう。」



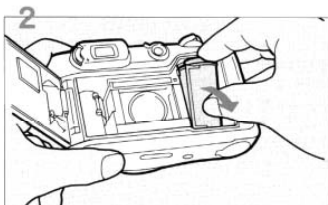
1. フィルムの巻き戻し

フィルムの最後まで撮り終わると、レンズが自動的に収納され巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように「0」が点滅して知らせます。

※ 巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。

※ 巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。

※ 巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、バッテリーに巻き込まれます。

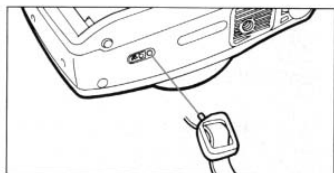


2. フィルムの取り出し

裏ぶたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

※ 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムが最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。

- フィルムの規定枚数を越えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、フィルム途中巻き戻しボタンをストラップ留め具の突起で押すと、レンズが自動的に収納され巻き戻しが始まります。

巻き戻しが終わると、モーターは止まり  が点滅して知らせます。

- ストラップ留め具以外は使用しないでください。巻き戻しボタンを傷付けることがあります。

いろいろな機能の選び方／赤目軽減機能

いろいろな撮影をしましょう。

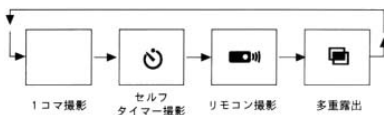


露出方式  ストロボ/バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。]



- ①②③のボタンは、1回ずつ押して合わせます。
- 通常の撮影では「オート撮影、1コマ撮影でマルチ測距」に合わせてご使用ください。図のように、フィルム枚数だけが表示されれば、このモードになっています。電源スイッチをOFFからONにするとこのモードになります。
- 露出方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に④のボタンを押すと「オート撮影」に戻ります。
- ⑤の赤目軽減ボタン  を押して表示パネルに  を表示させておくと、ストロボが2度発光します。シャッターが切れる直前に最初のストロボ発光 [小光量] が行なわれ、瞳を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。
- ①②③および④のいずれかのボタンを暗い所で押すと、自動的に表示パネルの照明が点灯します。[20ページ参照]

撮影方式 [図の ②  セルフ／撮影モードボタンを押すと、「撮影の方式」を選ぶことができます。]



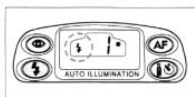
※ 撮影方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に ② のボタンを押すと「1コマ撮影」に戻ります。

測距方式 [図の ③  AF／遠景ボタンを押すと、「測距の方式」を選ぶことができます。]



27

日中シンクロ撮影



ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに  表示を出します。明るい所でも暗い所でもストロボ撮影

になります。

逆光以外でも被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると、陰の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご使用ください。

- シャッターボタンを少し押して、赤ランプ  点灯を確認してから撮影してください。赤ランプ  の点滅は、ストロボの充電中です。
- 日中、ストロボを補助光として使用する場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。[22 ページ参照]



ストロボなし



ストロボ使用 日中シンクロ

低速シャッター撮影・低速シンクロ撮影



ストロボOFF
[発光停止] ス
トロボ/バルブ
ボタンを押し、
表示パネルに
「B」表示を出

して撮影します。

暗い所でもストロボを発光させないで、約2秒までの低速シャッターで撮影できます。ストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。また、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真も楽しめます。



低速シンクロ撮影



低速シンクロ撮
影 [ストロボ使
用]
ストロボ/バル
ブボタンを押し、
表示パネルに

「B」表示させると、低速シンクロ撮影になります。

暗い背景で人物撮影をするとき、人物にはストロボ光があたり、背景も遅いシャッタースピードでバランス良く写せます。

- 暗い所ではシャッター速度が遅くなるので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。
- 低速シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。[22ページ参照]

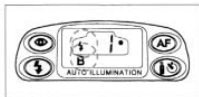
29

バルブ撮影・バルブシンクロ撮影



バルブ撮影
ストロボ/バル
ブボタンを押し、
表示パネルに
「B」表示を出
して撮影します。

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて最長5分までの長時間露出ができます。花火や夜景の撮影にご利用いただけます。撮影時は、カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。



バルブシンクロ
撮影
ストロボ/バル
ブボタンを押し、
表示パネルに
「B」表示を出
して撮影します。

バルブシンクロ撮影ではストロボが使えますので、夜景などを背景にした人物撮影ができます。



バルブ撮影
ISO400 で約 3 秒の撮影

- バルブシンクロの場合にも「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。[22ページ参照]

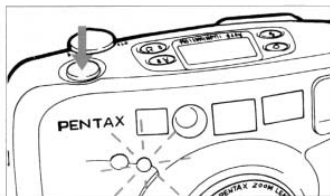
セルフタイマー撮影



撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。撮影時は三脚などを使用してくだ

さい。

セルフ／撮影モードボタンを押して、表示パネルに  表示を出して撮影します。



写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマーの作動中は、表示パネルの  の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

31

リモコン撮影

- カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので、ご注意ください。
- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、電源スイッチを押してください。[この場合は電源OFFになります。]
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了〔赤ランプ  点灯〕を確認してから、セルフタイマーを作動させてください。
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影をした場合、シャッター速度は約1/2秒になります。

リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

※ リモコン撮影するときには、三脚などをご利用ください。

※ リモコン撮影時もカメラ側の各露出モードとの組み合わせによる撮影ができます。ただし、撮影方式は、「1コマ」撮影だけとなり、「セルフタイマー撮影」および「多重露出撮影」は使用できません。

※ バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約5分]

カメラのセルフ／撮影モードボタンを押して、表示パネルに  を出します。



リモコン各部名称

シャッターボタン



リモコン投光部



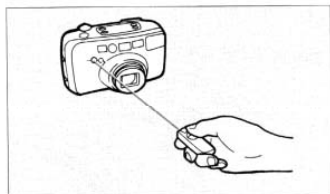
ランプの点滅

撮影モードをリモコン撮影モードにするとカメラ前面のセルフタイマーランプがゆっくり点滅し、リモコン撮影ができることを知らせます。

※ このとき、カメラのシャッターボタンを押すと通常の1コマ撮影になります。

※ リモコン撮影モードのまま、約5分間放置すると、自動的に電源OFFになります。再びご使用になる場合は、電源スイッチを入れ直してください。

33



撮影

ファインダーで構図を決め、オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。

カメラから離れてリモコン受光窓にリモコン投光部を向け、リモコンのシャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが3秒間早い点滅をした後シャッターが切れます。

※ リモコン撮影時のフォーカスロックはできませんので、リモコンのシャッターボタンを押したときのオートフォーカスフレームに合っているものに、ビントが合います。

リモコン撮影のできる距離

カメラ前面受光窓の真正面から約5m以内

● 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。その場合は、通常のセルフタイマー撮影をご利用ください。

● ストロボ充電中はリモコン操作はできません。

※ リモコンを使用しないときは、ソフトケースのポケットに入れておくと便利です。[6ページ参照]

リモコン用電池の寿命

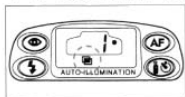
約 30,000 回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

多重露出撮影 [フィルムをプリントするとき、多重露出されていることを店頭で申し出ないとプリントされない場合があります。]



同一のフィルム画面上に重ねて撮影することができます。

アイデア次第で面白い写真が作れます。



撮影手順

1. セルフ／撮影モードボタンを押して、表示パネルに  表示を出して撮影します。
2. シャッターボタンを押して1回目の撮影をします。[フィルムは巻き上げられません。] 表示パネルのフィルムの枚数表示と  が点滅して、多重露出撮影中であることを知らせます。
3. 構図を決めてから、シャッターボタンを押して2回目の撮影をします。[撮影が終わるとフィルムが巻き上げられ「1コマ撮影」に戻ります。]

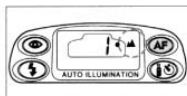
※ 多重露出を2回以上行なうときは、「2.」の操作の後に、セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルの  表示を点灯にしてから再び撮影してください。

※ デートの表示は、最後の「3.」の操作で写し込まれます。

※ 多重露出を何回も行なうと、全体に明るい露出オーバーの写真になります。[2回位までの多重露出をお勧めします。]

※ 多重露出は、背景が黒いもの[夜景など]に人物を重ねて撮影するなどの方法があります。

遠景撮影



遠い風景やガラス越しの遠景などを撮影するときに、遠景撮影にすると、よりシャープな風景写真が撮れます。

AF/遠景ボタンを押して、表示パネルに  表示を出して撮影します。
シャッターボタンを少し押すとファインダー内にも  が表示されます。

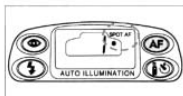
※ 遠景撮影では、ファインダー内のオートフォーカスフレームと緑ランプ  は点灯しません。



※ 一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
※ 露出方式が「オート撮影」では、暗くてもストロボは発光しません。

37

スポット測距



ファインダー内の中央付近だけでピント合わせを行ないますので、特定の部分にピントを合わせたいときにご利用ください。

スポット測距に切り替えます
AF/遠景ボタンを押して、表示パネルに  の表示を出します。

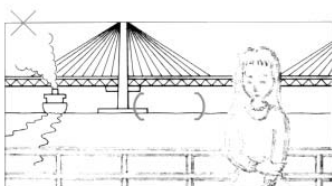


ピントを合わせます
画面中央のオートフォーカスフレームを写したものに合わせます。
このカメラでは、焦点距離によってオートフォーカスフレームが自動的に変化します。[17 ページ参照]

- ピントを合わせたいものが画面中央にない場合は、フォーカスロック [ピント一時固定] 撮影を行ないます。[39 ページ参照]

38

フォーカスロック撮影

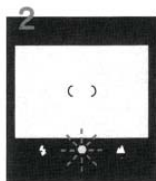


こんなときは注意しましょう！

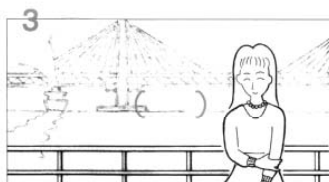
このまま撮影すると、図のように人物にはピントが合わず、後ろに合ってしまいます。

ピントを合わせたいものがファインダー中央のオートフォーカスフレームから外れているときは、右の操作説明に従ってフォーカスロック撮影をしましょう。

[フォーカスロックとは、撮影前にピントを合わせて、それを一時的に固定することです。]



1. オートフォーカスフレームを合わせる
ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせます。
2. フォーカスロック [緑ランプ  点灯]
シャッターボタンを少し押すと緑ランプ  が点灯して、ピントと露出が固定されます。

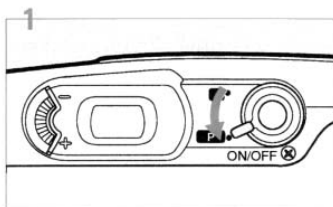


3. 構図に合わせて撮影します

シャッターボタンを少し押したまま写したい構図にして、シャッターを切ります。

※ フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

パノラマ撮影



このカメラでは、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチをPに合わせるとパノラマ撮影モードになります。

※ パノラマに切り替えると、ファインダー内がパノラマ用に横長になります。

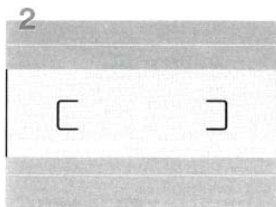


赤線は日付や時刻の写し込まれる位置

パノラマデートについて

標準撮影と同様にパノラマ撮影でも画面内右下に日付や時刻を写し込むことができます。使い方は標準撮影の場合と同じですので、「デートの使い方」44ページをご覧ください。

標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行なわれます。



2. 撮影します

パノラマの視野枠内に写したいものを入れて撮影してください。

- 近距離でのパノラマ撮影では、標準撮影同様に、ファインダー内の視野枠が自動的に変化し、補正されますのでこの範囲に写したいものを入れてください。[16 ページ参照]

41

パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム「パトローネ」に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

- パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合→



混在

パノラマ標準

- フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合→



全数

パノラマ

※ パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。
詳しくは、お店でおたずねください。

※ パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

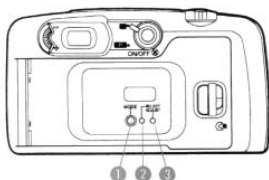


※ パノラマでは、フィルム上に約13mm×36mmの大きさに画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。

※ パノラマプリントは89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

43

デートの使い方



① **MODE** モード：切り替えボタン

② **SELECT** セレクト：選択ボタン

③ **ADJUST** アジャスト：調整ボタン

このカメラは、オートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、製品出荷時にほぼ正しくセットしてあります。

モードの切り替え

①の **MODE** ボタンを爪で押して、希望の表示を出します。

※ 日付や時刻を写し込みたくない場合は、----- に合わせます。

※ デート表示窓の **M** は「月」の位置を示しています。

※ **SELECT** および **ADJUST** ボタンを押すときは、ストラップ留め具の突起をご使用ください。



この写真の数字はハメコみ合成です。

日付や時刻の修正

1. ②の「SELECT」ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
2. ③の「ADJUST」ボタンは、②の「SELECT」ボタンで指定した修正したい数値「点滅させた」を変更するときに押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
3. 修正後は、②の「SELECT」ボタンを押して、写し込み可能マーク「—」を表示させます。

※ 修正中「点滅表示中」は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。

※ 「年月日」表示の「年」は、1994年では「94」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

※ 「日時分」表示の時に②の「SELECT」ボタンで「:」表示を点滅させ、③の「ADJUST」ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

データの写し込みについて

写し込みたい日付や時刻を選んでデータ表示窓に出しておけば、シャッターを切るごとに写し込まれます。

※ 「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。

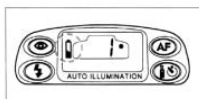
※ シャッターを切るとデータ表示窓の「—」が点滅し、写し込みが行なわれたことを示します。

※ 標準データとパノラマデータの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行われます。

- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい被写体来ると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものが来ないようにしましょう。

45

電池の消耗警告



電池が消耗してくると表示パネルに図の  マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。 が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

撮影できるフィルム本数 [24枚撮り]
通常の撮影モードでストロボの使用率を
50%にした場合 約15本
[CR123A電池・当社試験条件による]

※ あらかじめカメラにセットされている電池はサンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

電池を交換するときの注意

1. 電池の交換は、電源をOFFにして行なってください。

2. 電池は、データ用電源と共用です。交換後は日付および時刻の修正を行なってください。

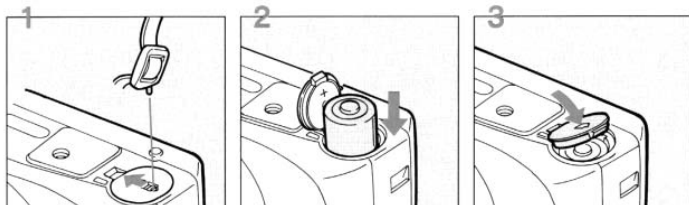
[修正は45ページをご覧ください。]

※ フィルム枚数は電池を交換しても、そのまま記憶されています。

※ 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。

また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。

電池の交換[電源を OFF にします]



1. 電池ふたを開けます

ストラップのピンを利用して電池ふたのロックを矢印方向に引いて電池ふたを開けます。

2. 電池を入れます

電池ふたの＋表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

使用電池 [3V リチウム電池1本]

CR123A 相当品

3. 電池ふたを閉めます

電池ふたを矢印方向に押します。

電池ふたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

- 電池が正しく入っている場合は、電池ふたを取り付けたとき、ズームレンズが少し動きます。

- 電池ふたを開けたときは、日付および時刻の修正を行なってください。

[修正は45ページをご覧ください。]

47

カメラを安全にお使いいただくために(2)

⚠ 警告

- ⊘ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⊘ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⊘ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

⚠ 注意

- ⊘ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- ・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- ・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- ・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- ・レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- ・業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
- ・高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- ・カメラの使用温度範囲は-10℃~50℃です。
- ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

49

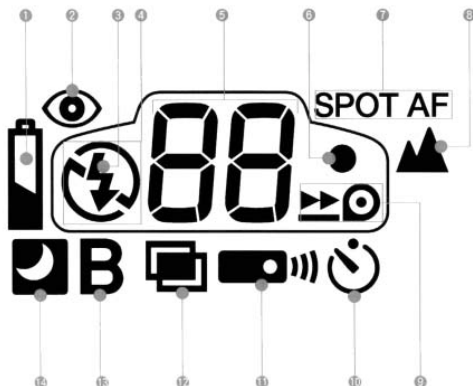
こんなときは？ [詳しくは、各ページをご覧ください。]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： ●電源スイッチがOFFになっていませんか。スイッチをONにしてください。[8ページ] ●電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[46ページ] ●表示窓に  が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[24ページ]
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： ●ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせて撮影してください。[21ページ] ●指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[10ページ] ●測距窓が汚れていませんか。[21ページ]
症状3：ズームレンズが勝手に収納された。 [電源がひとりでに切れた]	原因・対処3： ●電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にOFFになります。[9ページ] ●リモコン使用時は、放置後約5分間たつと、自動的にOFFになります。[33ページ]

症状	原因・対処
症状 4 : リモコンによる操作が出来ない。	原因・対処 4 : ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約 5m です。この範囲内でリモコンを操作してください。[35 ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[35 ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[35 ページ] ● リモコンの電池が消耗している。[35 ページ]
症状 5 : 暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処 5 : ● 逆光のときにもストロボが自動発光します。[19 ページ] ● 日中シンクロ撮影になっている。[28 ページ]
症状 6 : 表示パネルに H や U などの表示がでる。	原因・対処 6 : ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのまま使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

表示パネル



各部の名称

① 電池消耗警告	[46 ページ]
② 赤目軽減	[26 ページ]
③ ストロボON	[28 ページ]
④ ストロボOFF	[29 ページ]
⑤ フィルムカウンター	[14 ページ]
⑥ シャッターボタン	
⑦ SPOT AF	[38 ページ]
⑧ 遠景	[37 ページ]
⑨ フィルム巻き戻し	[24 ページ]
⑩ セルフタイマー	[31 ページ]
⑪ リモコン撮影	[33 ページ]
⑫ 多重露出	[36 ページ]
⑬ バルブ	[30 ページ]
⑭ 低速シャッター	[29 ページ]

液晶表示[LCD]について

- 約 60℃ の高温では液晶表示が黒くなる場合がありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

ストロボ撮影可能距離と赤目現象

ISO100、200、400 以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲[ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	25	50	800	1600	3200
38mm(◆◆◆)	0.73~2.2m	0.73~3.2m	0.84~12.7m	1.2~18.0m	1.7~25.4m
140mm(◆)	1.0~1.2m	1.0~1.7m	1.0~6.7m	1.0~9.4m	1.0~13.3m

* 高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

アフターサービスについて

- ・旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
- 1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口へ直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただくと原因分析に役立ちます。
- 2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様に負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
- 3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
 - ・使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
 - ・当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
 - ・火災・天災・地震等による故障。
 - ・保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等)や手入りの不備(泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等)による故障。
 - ・保証書の添付のない場合。
 - ・販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
- 4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
- 5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能な場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
- 6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。[保証期間中のみ有効]

55

主な仕様

形式	ズームレンズ内蔵フルオート 35mm レンズシャッターカメラ[デット付き]
使用フィルム	35mmDXフィルム専用[135 バトロネ入り] ISO25~3200 自動感度セット[1EVステップ] DX以外=ISO25 固定
画面サイズ	24×36mm[パノラマ撮影時は13×36mm]
フィルム入れ	オートローディング、裏ふた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ	自動巻き上げ式
巻き戻し	フィルム終了時自動巻き戻し式[巻き戻し時間: 24枚撮りフィルムで約20秒]巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数	自動復元順算式、巻き戻しに連動[減算]
外部表示	表示パネルにLCD液晶表示[低輝度時自動照明および強制照明あり]
レンズ	ペンタックス38~140mmF4.1~10.2電動ズームレンズ 7群9枚 画角[対角線]59°~17.5°
ピント合わせ	バッシュ5点AF測距方式[スポット測距可能]、フォーカスロック付き、測距範囲=1m~∞[140mm側] 0.73m~∞[38mm側]、[最大倍率約1/6.9×]、遠景撮影モード付き[ピントは無限遠に固定]、補助光あり
ズーミング	電動式
シャッター	プログラムAE電子式シャッター=約1/400~2秒、バルブ[1/2秒~5分]、電磁リリース式
セルフタイマー	電子式赤ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
ファインダー	液晶表示付き実像式ズームファインダー、視野率83%、倍率0.45×[38mm側] 1.37×[140mm側] 視度調整付き -3~+1m ⁻¹ [毎メートル]、オートフォーカスフレーム[測距不能時点滅、6段階自動切り替え]、視野枠、近距離視野補正枠、パノラマ視野枠、緑ランプ  点灯: 撮影可能・点滅: 測距不能警告、赤ランプ  点灯: ストロボ発光・点滅: ストロボ充電中、緑ランプ  点灯: 遠景撮影

露出	プログラム式自動露出[6分割測光] 露出連動範囲[ISO100] オート、日中シンクロ時=EV9.6~EV17[38mm 側] EV13~EV18[140mm 側] 低速シャッター撮影時=EV3.1~17[38mm 側] EV5.6~18[140mm 側] 逆光時自動露出補正可
多重露出	可能
露出計スイッチ	シャッターボタン
ストロボ	ズームオートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート=低輝度、逆光時自動発光、ストロボON=日中シンクロ/低速シンクロ[2秒まで使用可能]、ストロボOFF=発光停止、バルブシンクロ=1/2秒~5分
ストロボ撮影範囲	[ISO400 使用時] 38mm 側=0.73~9.0m、140mm 側=1.0~4.7m
ストロボ充電時間	約5秒[当社試験条件による]
リモコン	赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押して3秒後撮影、作動距離=カメラ前面5m 以内
リモコン電源	リチウム電池[CR1620]1個[サービスセンター交換]
リモコン大きさ	質量[重さ]...22.0[幅]×50.0[長]×9.5[厚]mm 9g [電池含む]
電源	3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本使用
撮影可能本数	24枚撮りフィルム使用時 約15本[ストロボ50%使用、当社試験条件による]
電池消耗警告	表示パネルに  が点灯、点滅時シャッターロック
デパート機構	クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[閏年は自動修正]、パノラマ時写し込み可能
データ写し込み方法	フィルム背面からの写し込み
データの種類	①年・月・日 ②日・時・分 ③--- --[データ写し込み無し] ④月・日・年 ⑤日・月・年
大きさ・質量[重さ]	132[幅]×74.5[高さ]×64.5[厚み]mm 325g [電池別]
付属品	ストラップ、肩当て、ソフトケース、リモコン

57

PENTAX® ESPio140

クイックガイド

クイックガイド(このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。)こんな写真を撮りたいと思ったときに、下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

ボタン

オート

最も一般的なモードです。暗い所や逆光では自動的にストロボが発光します。

日中シンクロ

明るくても暗くても常にストロボが発光します。帽子をかぶった人物撮影など、逆光以外で人物が暗くなってしまう時に使います。

低速シャッター

暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

低速シンクロ

夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てること、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

バルブ

花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

バルブシンクロ

バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

ボタン

セルフタイマー

自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。

リモコン

カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。

リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

多重露出

フィルムの同じ枚数のところに重ねて撮影をすることができます。

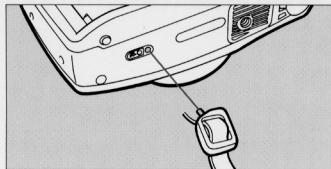
AF ボタン

遠景撮影

ガラス越しの遠景などを撮影するときにご利用ください。

SPOT AF スポット測距

特定の部分にピントを合わせたいときにご利用ください。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、フィルム途中巻き戻しボタンをストラップ留め具の突起で押すと、レンズが自動的に収納され巻き戻しが始まります。

巻き戻しが終わると、モーターは止まり **0** が点滅して知らせます。

日付や時刻の修正

1. **[SELECT]** ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
 2. **[ADJUST]** ボタンは、**[SELECT]** ボタンで指定した修正したい数値[点滅させた]を変更するときに押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2〜3秒後からは早送りされます。
 3. 修正後は、**[SELECT]** ボタンを押して、写し込み可能マークを表示させます。
- ※ 修正中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- ※ 「年月日」表示の「年」は、1994年では「94」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。
- ※ 「日時分」表示の時に **[SELECT]** ボタンで「:」表示を点滅させ、**[ADJUST]** ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

59

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-0401 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階 (※最寄)
旭光学 東京サービスセンター	〒104-0061 東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)
札幌サービスセンター	〒060-0010 札幌市中央区北10条西18-36 ペンタックス札幌ビル4階
仙台サービスセンター	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル5階
新潟サービスセンター	〒951-8067 新潟市本町通7番町1153 新潟本町通ビル4階
横浜サービスセンター	〒231-0032 横浜市中区不老町1-6-9 横浜エクセレントVビル3階
静岡サービスセンター	〒420-0858 静岡市伝馬町24-2 住友建設ビル5階
名古屋サービスセンター	〒461-0001 名古屋市中区栄1-19-8
大阪サービスセンター	〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
広島サービスセンター	〒733-0035 広島市西区南観音3-5-2 空港通りビル6階
福岡サービスセンター	〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 パールビル1階
お客様相談室	〒104-0061 東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)

☎03(3348)2941(代)
 ☎03(3571)5621(代)
 ☎011(812)3231(代)
 ☎022(371)6663(代)
 ☎025(224)8391(代)
 ☎045(681)8771(代)
 ☎054(255)6308(代)
 ☎052(962)5331(代)
 ☎06(271)7996(代)
 ☎082(234)5681(代)
 ☎092(281)8668(代)
 ☎03(3572)6479

* 日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。

ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラムは年中無休です。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

三宅坂ビル3階 ☎03(3580)0336



旭光学工業株式会社

〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

ペンタックス販売株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1